

2005 ベビーカー Babycar

AD06 伊藤 瑞穂
指導教員 竹内 明

1. 研究目的

現在、市場には乳児を育てるにあたって多種多様な子育て用品がある。それらの中で移動用の子育て用品については様々な事故が報道されている。これらの製品は以前から確立されているにもかかわらず問題点がクリアされていない、もしくは常に進化する社会の変動に順応しきれていない可能性が予測される。私の研究ではこれらについて追求し克服するものを提案する。

2. 調査と分析

事故が多発するベビーカーはその他にも様々な問題がある。

- ・温暖化による輻射熱の問題
- ・電車やバスなどの車内やそれらの施設にあるエレベーター、エスカレーター、階段など公共交通機関や公共設備でのトラブル
- ・歩道や公共施設での段差を無くしたりするなどのバリアフリー未開発による障害物での事故
- ・国産製品の操作性の問題

国産と海外のベビーカーの操作性の比較を行い、機能上の相違を調査した。

- ・国産：動きにくく、曲がりにくい。説明書不備では折り畳めない。操作中華奢な音が聞こえ強度不安を抱いた。
- ・海外製：少し大きい安定し、曲がりやすい誰でも使える捜査性を持つ。

3. コンセプトの立案

「親にとって最も重要なこと」

親にとって最も大切なものを乗せているという事を意識した安全で安心できるベビーカーを提案する。又、ユーザーの希望からより良く、しかし安くといった価値観に基づき、コストパフォーマンスをはかるために新たなマーケットサーキュレーションを提案をする。

4. デザイン展開

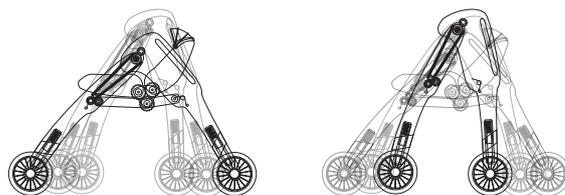
・2次検証結果により車体の重心座標やホイールベースの割り出しをすることで各要所の位置関係を基に安定性や強度を増すための構造や素材を展開し、重心は輻射熱と安定性の双方を考慮した位置に移動できるもの、ベストな重心位置と衝撃を

より吸収するための機構を取り入れた基本走行の向上

- ・輻射熱対策するために座席の地上からの高さの位置づけ
 - ・操作のしやすさ、判りやすさを考慮した一回の操作で重心と車幅が連動する構造。
- 3次調査から総体的なカラーはユニセックスな中間色、デザインは安定感や剛性のありそうなものを提案。

これらによりユーザーに輻射熱対策、安定性と強度があることを示すだけでなく視覚的に安心感を与えるデザインを展開。

5. 完成図



6. 結論

私の提案したベビーカーは次なる課題が残されていることが確認できた。

- ・全ての機能の向上とは難しく、もっと素材や構造についての幅広い知識を用いてユーザーの調査が必要であること。
 - ・製品とユーザーを取り巻く環境下で本来と違った使われ方をすると予測し続ける必要がある。
 - ・ユーザーの要求と製品の本質を両立させる必要があること。
- これらをクリアしたときデザインのあるべき姿が実現するのではないかと。
- ・実際の1/1スケールでの検証でしか得られない情報があること。

7. 参考文献

ベビーカーの乗り心地に関する感性情報評価と最適構造デザイン（千葉大学附属図書館）